

EARTH WIND

APUから地球に風を

立命館附属校APU通信

No.22

発行：学校法人立命館 一貫教育部

2015年6月15日発行

今年も4月27日・28日の2日間、附属校新任教諭APU研修が実施され、この4月から各附属校に着任された新任の先生方がAPUを訪問しました。APU研修は、附属校の教員が自ら「児童・生徒に『APUの魅力』を語れるようになる」ことを目標とし、今回で10回目となります。

APU通信では、前号よりリレー形式で『教員の視点から見たAPU』をお届けしており、今号がその2号目となります。なお、2015年度APUオープンキャンパスが①7/20(祝月)、②8/2(日)、③11/1(日)に開催されます。オープンキャンパス専用ツアーも受付中です。

オープンキャンパスの申込・詳細は、[APU mate.net](http://www.apumate.net) で検索して、「イベント情報」のページをご覧ください。 http://www.apumate.net/event_info/opencampus.html



世界 No.1 の Global Learning University へ

立命館アジア太平洋大学(APU)はアジア太平洋地域の未来創造に貢献できる人材の養成と新たな学問の創造を目的に国際大学の設立を構想していた大分県別府市の地に2000年創立された。国際経営学部(略称APM。マネジメントに関する専門性を高め、文化の多様性を維持することを通じて、グローバル化する企業、組織における諸問題の解決に活躍する人材を育成する)とアジア太平洋学部(略称APS。アジア太平洋地域の多様な政治、経済、文化等に関する総合的な理解に立ち、国際社会、環境と開発、観光等に関する基礎・専門知識を習得し、言語能力、コミュニケーション能力、問題解決能力を涵養し、多様な諸問題を解決し、アジア太平洋地域の持続的発展と共生に貢献できる人材を育成する)の2学部と大学院(アジア太平洋研究科・経営管理研究科)を設置している。開学当初より「大学丸ごと国際化」を実現し、2014年11月現在、世界75カ国・地域からの国際学生2,653名と国内学生3,137名が学ぶ国際大学である。国際感覚を身につけ、『越境するメンタリティー』異文化の境界を易々と超える気概を持った卒業生は多くの国内・国際企業から評価され、就職内定率は毎年90%後半を継続している。2014年度文部科学省「スーパーグローバル大学(SGU)創成支援」事業に選ばれる「タイプB:グローバル化牽引型」大学として日本を代表する国際化大学へのさらなる発展を目指している。



日常がグローバル化する！

APUでは専門科目の大半が日英二言語で開講されており、自身が思考する言語で専門知識を理解することができる。カリキュラムはクォーター制(1クォーター=2ヵ月)を導入し集中的な学びで学習の節目・山場を頻りに設定し、期末考査の成績のみならず、日々の学習参画状況も評価の対象としている。何よりも国際学生と行うワークショップを通じて異文化間協働の体験学習が実践され、衝突・協議・合意・検証を繰り返す中で多様性を活かす問題解決能力の育成が行われている。また、ワークショップは学部生のTA(授業アシスタント)がファシリテートしておりTAはリーダーとしての資質を高めている。明確な高い目標を持った国際学生の積極性が中心となっているように思われがちだが、多様な文化・思想を受け入れつつも自分の意見を主張することは国際学生も初期のうちは戸惑っているようである。学生がしっかりと学ぶための国際通用性のある教育システムが構築され、そこへ思い切って飛び込むことでまさに日常の講義がグローバル化する環境にある。

生活がグローバル化する AP ハウス！

APUは国際学生と国内学生が共に生活する1,310名が居住できる学生寮APハウスを設置している。APハウスは様々な国・地域の学生が居住する多文化共生を実践する国際学生寮である。自分と異なる文化的背景を持つ友人たちと共同生活を送る中で、寮生は異文化コミュニケーション能力や言語能力の必要性を自覚し、これからの国際社会で活躍するために必要な経験を通じて積み重ねることができる。

新入生は、APハウス教職員の支援はもとより、各フロアに2名ずつ配置されたレジデント・アシスタント(RA)と呼ばれる学生から寮生活についてのガイダンス、学校生活の相談、多様な学生との人間関係を確立するための支援を受けることができる。多くの附属校卒業生は、1年間のAPハウスでの生活を経た後、2回生でRAとして下級生の相談に乗り、国際学生の日本での生活を支える活躍をしている。

まさに新しいコミュニティ、生活の場を形成する学びの場となっている。



立命館守山での学びを「成長し続ける大人へ」と鍛える APU

APUはこれまでの教職員とRA、TAをはじめとした学生リーダーの努力によって日本初の国際大学へと成長した。2015年に在学中の附属校卒業生はAPUの学びと生活をつくる活動から、APUでの経験をもとに留学、学外団体との協働、新しい海外支援組織の立ち上げ、ナショナルリズムを打ち出したサッカーAPU World Cupの企画など課外への自主的活動を広げている。今日の発展と社会変化の激しい世界環境において、大学時代に学んだ専門の興味期限も短くなりつつある。APUは将来にわたって学び続けるDeep Learningを高め、多様性と自主性を鍛え社会性を高め続ける大人の育成を目指した教育の構築を新たな課題に設定している。その一つとして正課・課外活動を連携し、ピアリーダー(学生リーダー)を中心とした学生主体の新しい教授法への挑戦を始めている。立命館守山中高時代を過ごす皆さんは、地道な基礎知識の習得の上に実験・論文・研究活動を通じて基本的学力を身につけ、そして総合学習・海外研修での体験を通じて学びの意義と新たな課題の発見を行う学習活動を行っている。また、授業、研修準備でのグループ活動、文化祭をはじめとした行事において、多様な意見をまとめ、発表し、目的達成に向けて協働することをすでに経験している。中高時代は滋賀県を中心とした近隣府県の同世代との協働。APUは世界75カ国・地域から集まった多文化同世代との協働。立命館守山での学びの対象を広げ、高める場がAPUにはある。立命館守山での学生生活が充実していた人は国際人への資質十分。英語は出来るに越したことはないが、必要性を感じた時にこそ真剣に習得できる。ファイナンス、マネジメント、環境・開発、観光、文化・社会・メディアなどの分野で世界の人々と共に働きたいと考えている人は是非ともAPUから世界のステージに駆け上がってほしい。



Impressions of APU – Student Voices

It was my distinct pleasure to attend the familiarization session at APU in Beppu in April 2015. I had the opportunity to talk with around twenty students at the University and gauge their opinions of the University. There were numerous wonderful things that I learned during my time on campus at APU, too many to list in any detail here. The following are just a few of the strong points of APU:

The International Students

The students at APU come from a huge range of countries and they provide a lot of color and variety that most Japanese universities would struggle to rival. They bring culture, ideas, diverse experiences and immense opportunities to learn for Japanese students. Students often share a room with students from other countries and get a unique chance to spend time building unique friendships. The university also runs cultural “weeks” where groups of students take turns to introduce cultural aspects of different countries. The university offers the chance to be a “buddy” for short-term exchange students.

Many universities claim to be international. Asia Pacific University delivers.



The Domestic Students

My overwhelming impression of the Japanese students at APU was of high achievement. The students I spoke with were all involved in international exchanges, activity circles, volunteer work and positions of responsibility within the university. They were friendly, mature and organized. They spoke with passion on topics that were important to them. They showed a level of commitment and ability that I have not encountered in students of their age before in Japan. In many ways the students were more like students in western countries like Britain and the US.

As more than one student said, “being at APU is not like being in Japan.”

The Educational Programs

All students at APU have a certain number of hours of instruction per week in another language. The goal of “education in English” is realized for Japanese students and foreign students receive some of their instruction in Japanese. Language is a must for APU students.

The students at APU have a lot of control over what they study and the most modern approaches to teaching and learning are being used in all classes. Many classes have small numbers for teaching groups and students teach each other.

APU really is at the forefront of education in Japan.



AP House

AP House is the university dormitory and was universally praised by both international and domestic students alike. It provides a chance to make friends from within and outside Japan right from the start and is overwhelmingly international. Its events were praised, as was the room-sharing system and policy of putting students from a large number of countries on the same floor as each other.

As many students told us, “my roommate was the start of my internationalization.”

All in all it was a very pleasurable place to be and to study. The campus and facilities were excellent and the student life seemed to be excellent. I would strongly recommend APU for students in Japan looking for a more international style of education and for international students looking for a place to study in Japan where instruction is provided in English.

“Being at Asia Pacific University is like being abroad, in Japan”

APU ワンダー

APU の学生達

学生時代にチャレンジするなら APU です。APU の魅力は何と言っても一つの大学キャンパスに、アジア太平洋や世界中の留学生があふれており、国内にいながらありとあらゆる背景を持った海外の学生達と、濃密な大学生活を送ることができる点です。そして目的意識を持って留学して来た学生達はとにかくアクティブ。気持ちがオープンで好奇心さえあれば、そんな学生達と思う存分人間関係のネットワークを作ることができる環境があります。

多言語授業

そして英語はもちろんのこと、第 3、第 4 の言語を習得に挑戦しようという意思があればそれに答えられる多言語環境があります。アジア・太平洋の言語を話す学生達が身近におり、会話を実践しながら学べます。

また大学の授業も海外からの教員が半数を占め多様な英語での講義はもちろんのこと、日本語と英語をミックスさせながらの講義、留学生との授業における議論も魅力です。また様々な海外プログラムが準備されており、積極的に交換留学の機会が用意されています。

APU ハウス

その魅力は大学内だけにとどまらずに APU ハウスと呼ばれる留学生・国内学生混住の寮があります。生活全体を通して、異文化のライフスタイルとの接触と刺激・葛藤があり、世界の多様性を経験することができる格好の場所です。共に寮で時間を過ごすということは、料理の仕方を教えあうだけでなく、何気ない会話から価値観や生き方、そして将来の目標などを語りあえるそんな寮生活が広がっています。

世界の温泉地別府

そして世界に誇る温泉地である別府にある APU の立地は、湯煙が立ち並び先進的で伝統を残した街の中でのびのびと学生生活が送れます。毎日のように温泉に入れるのも最高です。そして九州の雄大な自然が近くにあり、アウトドアを思いっきり満喫できます。百聞は一見に如かず。ぜひ一度 APU を見に行ってください。自分も学生時代やりなおせるならこの大学に一度は通ってみたいと思いました。

☆☆☆ APU 便り ☆☆☆

立命館慶祥中学校・高等学校 松田淳二

国道から一本それるとそこは大自然。青々とした照葉樹林。九州特有の森。急な坂道を登り街並みが小さくなる頃、不意に見えてくる見慣れた色の建物と APU の文字。ここが Ritsumeikan Asia Pacific University (立命館アジア太平洋大学、APU)。日本らしい自然の中のキャンパス、しかしここは日本ではない。楽しそうに談笑するのは留学生。聞こえてくるのは英語。日本人らしき人がいるかと思えば、やはり聞こえてくるのは英語と、ときおり中国語。中国人だった。ここは日本ではない。ではどこの国かという、どこの国でもない。ここは世界だ。



APU の学生の半数が留学生。75 ヶ国の国と地域から集まってきた。留学生はみんな気さく。公用語が英語のようなもので、皆英語で話すが、たどたどしい英語でもわかってくれる。英語もしくはヨーロッパ言語を母語としない人は、英語に苦労していることをわかってくれる (ただし訛りもひどいが・・・)。言葉の違いも、文化の違いも、価値観の違いも、全て受け入れられる。APU で世界を体験した学生は、世界に羽ばたいている。企業が注目する大学3位にもランクインした (日本経済新聞 2012 年)。

APU 志願者は TOEFL 平均点 550 点超という優秀な学生である。一般入試の得点は立命館大学に比べてなんから見劣りしない (図)。さあレッツ内部進学!

